

科目番号	科目名	看護キャリア開発学特論		担当教員：グレッグ美鈴	
博看 006	科目名（英語）	Theory and Research on Career Development in Nursing			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	2	研究室	指定時間
1. 授業の概要					
専門職としての看護職の発達を個人と組織の観点から捉え、看護キャリア開発に関わる現象を多角的に探究する。そのために、まずキャリア開発に関する主要な理論としてキャリア発達理論、計画的偶発性理論などを学ぶ。次にキャリア開発に関わる主要な概念として、専門職、キャリアデザイン、職業的アイデンティティなどを学ぶ。これらの学習に基づき、看護キャリア開発学に関して自身の関心のある現象を取り上げ、既習の理論及び概念を用いて関連性を明確にする。次に関心のある現象の文献検索を行い、文献をクリティークする。それを基に看護キャリア開発学の体系化に資する研究課題を明確化することを目的とする。					
2. 到達目標					
1. キャリア開発に関する理論、概念を説明する。 2. 看護キャリア開発に関わる現象を理論、概念、実証的研究の観点から分析的に述べる。 3. 特定の現象を研究することが看護キャリア開発学の体系化に貢献することを説明する。					
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性					
授業の到達目標は下記の DP と密接に関連している。 1. 高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自律して行うことのできる能力を有している。 2. 生涯に渡り自己研鑽し、高度な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる能力を有している。 4. 看護の専門性を追究し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力を有している。					
4. 授業の計画と内容					
第1回	オリエンテーション、キャリア、キャリア発達、キャリア開発の概念の整理				
第2回	キャリア開発に関わる理論の理解1：キャリア発達理論				
第3回	キャリア開発に関わる理論の理解2：計画的偶発性理論				
第4回	キャリア開発に関わる理論の理解3：トランジション理論				
第5回	キャリア開発に関わる理論の理解4：ライフ・ステージ論				
第6回	キャリア開発に関わる理論の理解5：キャリア・アンカー論				
第7回	キャリア開発に関わる理論の理解6：まとめ				
第8回	キャリア開発に関わる概念の理解1：専門職				
第9回	キャリア開発に関わる概念の理解2：キャリア開発モデル				
第10回	キャリア開発に関わる概念の理解3：キャリアデザイン				
第11回	キャリア開発に関わる概念の理解4：キャリアプラトール				
第12回	キャリア開発に関わる概念の理解5：組織社会化／組織再社会化				
第13回	キャリア開発に関わる概念の理解6：組織開発				
第14回	キャリア開発に関わる概念の理解7：職業的アイデンティティ				
第15回	キャリア開発に関わる概念の理解8：まとめ				
第16回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象と既習の理論との関連				
第17回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象と既習の概念との関連				
第18回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク1				
第19回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク2				
第20回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク3				
第21回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク4				
第22回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク5				
第23回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク6				

第24回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク 7
第25回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク 8
第26回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象の文献クリティーク 9
第27回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象と実証的研究の関連 1
第28回	看護キャリア開発に関して自身の関心のある現象と実証的研究の関連 2
第29回	看護キャリア開発学の体系化に資する研究課題の明確化
第30回	まとめ
5. テキスト	
テキストは使用しない。参考文献は、随時提示する。	
6. 準備学習	
プレゼンテーションの資料を準備し、授業の1週間前までに配布する。	
7. 成績評価の方法	
・プレゼンテーション 30 点（評価視点：資料の適切性、理解度、説明の明快性） ・ディスカッションへの貢献度 10 点（評価視点：テーマを深める多角的発言） ・レポート 60 点（評価視点：現象の多角的理解度、看護キャリア開発学研究の明瞭性）	
8. 履修の条件	
特になし。	
9. その他	

科目番号 博看 007	科目名 科目名 (英語)	がん看護学特論 Oncology Nursing		担当教員：玉井なおみ、木村安貴	
単位数 2	受講年次 1	開講予定学期 通年	登録予定人数 2	研究室 各研究室	オフィスアワー 各指定時間
1. 授業の概要					
がんサバイバーシップの概念を基にがんの診断時期から終末期まで、がんと共に生きる人々とその家族の体験を広い視野から概観し、全人的かつ地域文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探究する。さらに、国の施策と動向、社会的ニーズを踏まえ、課題の明確化や理論構築、看護介入モデルや評価尺度の開発等、がん看護学領域に求められる課題解決に向けたエビデンスの構築や理論開発の方略を学ぶ。それを基にがん看護学に寄与しうる新たな知識の創出を目指し、その学問的発展を導く能力を養うことを目的とする。					
2. 到達目標					
1. がん看護学分野の諸理論・概念を説明できる。					
2. がん看護学領域に求められる課題解決に向けたエビデンスの構築や理論開発の方略を説明できる。					
3. がん看護学に寄与しうる新たな知識の創出が、学問的発展に寄与することを説明できる。					
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性					
本授業は、看護学研究科博士後期課程の学位プログラムの DP に従い下記について育成する。					
DP1：高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・進化に寄与する研究を自律して行うことのできる能力					
DP2：生涯にわたり自己研鑽し、高度な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる能力					
DP3：沖縄の歴史や文化に根ざしたケアリングの理解を基に、人々の生活及び地域のニーズに沿った保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力					
DP4：看護の専門性を追求し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力					
4. 授業の計画と内容					
第 1 回ではがん医療を取り巻く国の施策とがん医療について学習する。第 2～13 回は、がん看護学及び関連学問領域の理論と実践の活用について学習し、第 14 回では第 2～13 回までの学習を踏まえ、地域におけるがん看護分野に関する現象を取り上げ、理論活用の限界及び課題を明らかにし、求められる研究の方向性を議論する。第 15～20 回は、がん看護学及び関連学問領域の理論開発の方略について学習し、第 21 回では第 15～20 回までの学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、地域文化の視点を踏まえた理論開発の方略について議論する。第 22～27 回は、がん看護学及び関連学問領域の科学的エビデンスの構築の方法について学習し、第 28 週では第 22～27 回までの学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、論文クリティークした結果を発表し、沖縄の地域文化を踏まえた視点から議論する。第 29 回では、国内外の文献からがん看護学における看護の現状と課題を議論する。第 30 回では、総合討論としてこれまでの学習を振り返り、地域文化に根ざした視点からがん看護の課題を議論する。					
第 1 回	オリエンテーション、がん医療を取り巻く国の施策とがん医療			玉井なおみ、木村安貴	
第 2 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 1： がんサバイバーシップの概念①			玉井なおみ、木村安貴	
第 3 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 1： がんサバイバーシップの概念②			玉井なおみ、木村安貴	
第 4 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 2：不確かさ理論①			玉井なおみ、木村安貴	
第 5 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 2：不確かさ理論②			玉井なおみ、木村安貴	
第 6 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 3：意思決定支援モデル①			玉井なおみ、木村安貴	
第 7 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 3：意思決定支援モデル②			玉井なおみ、木村安貴	
第 8 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 4： MSM、IASM、QOL①			玉井なおみ、木村安貴	
第 9 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 4： MSM、IASM、QOL②			玉井なおみ、木村安貴	
第 10 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 5： 拡張する意識としての健康理論①			玉井なおみ、木村安貴	
第 11 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 5： 拡張する意識としての健康理論②			玉井なおみ、木村安貴	
第 12 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 6：危機理論、悲嘆理論①			玉井なおみ、木村安貴	
第 13 回	がん看護学及び関連学問領域の諸理論、モデル、概念 6：危機理論、悲嘆理論②			玉井なおみ、木村安貴	

第 14 回	第 2～13 回までの学習を踏まえ、地域におけるがん看護分野に関する現象を取り上げ、理論活用の限界及び課題を明らかにし、求められる研究の方向性を議論する（課題レポート①）	玉井なおみ、木村安貴
第 15 回	理論開発の方法 1：概念分析①	玉井なおみ、木村安貴
第 16 回	理論開発の方法 1：概念分析②	玉井なおみ、木村安貴
第 17 回	理論開発の方法 2：理論分析①	玉井なおみ、木村安貴
第 18 回	理論開発の方法 2：理論分析②	玉井なおみ、木村安貴
第 19 回	理論開発の方法 3：理論構築①	玉井なおみ、木村安貴
第 20 回	理論開発の方法 3：理論構築②	玉井なおみ、木村安貴
第 21 回	第 15～20 回までの学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、地域文化の視点を踏まえた理論開発の方略について議論する（課題レポート②）	玉井なおみ、木村安貴
第 22 回	科学的エビデンスの構築の方法 1：メタ分析①	玉井なおみ、木村安貴
第 23 回	科学的エビデンスの構築の方法 1：メタ分析②	玉井なおみ、木村安貴
第 24 回	科学的エビデンスの構築の方法 2：メタ統合①	玉井なおみ、木村安貴
第 25 回	科学的エビデンスの構築の方法 2：メタ統合②	玉井なおみ、木村安貴
第 26 回	科学的エビデンスの構築の方法 3：システムティックレビュー①	玉井なおみ、木村安貴
第 27 回	科学的エビデンスの構築の方法 3：システムティックレビュー②	玉井なおみ、木村安貴
第 28 回	第 22～27 回までの学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連するテーマを選び、10 本程度の国内外の論文をクリティークした結果を発表し、沖縄の地域文化を踏まえた視点から議論する（課題レポート③）	玉井なおみ、木村安貴
第 29 回	がん看護学における看護の現状と課題の検討	玉井なおみ、木村安貴
第 30 回	総合討論：これまでの学習を振り返り、地域文化に根ざした視点からがん看護の課題を議論する（課題レポート④）	玉井なおみ、木村安貴
5. テキスト		
テキスト：Kenneth D. Miller (2010)／勝俣範之 監訳 (2012)：がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす、医学書院 参考文献： ・Lorraine Olszewski Walker／中木高夫 (2008)：看護における理論構築の方法、医学書院 ・Jacqueline Fawcett／太田喜久子、他 (2008)：フォーセット 看護理論の分析と評価、医学書院 ・Rodgers (2000)：Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications, Saunders, USA. ・Judith Garrard／安部陽子 (2012)：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式、医学書院 ・必要に応じて国内外の最新の学術論文を資料として配布する。		
6. 準備学習		
・初回授業において、年間を通して学習課題を明示するので計画的に準備学習に取り組むこと。 ・事前に配布する資料の読み込み及び疑問点の明確化、プレゼンテーション資料の作成及び発表の準備を行なうこと。		
7. 成績評価の方法		
・授業への取り組み（資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション）及び課題レポートにより評価する。 授業におけるプレゼンテーション (25%) ディスカッションへの参加度 (25%) 課題レポート（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ） ①第 14 回授業終了時提出 (10%)、②第 21 週授業終了時提出 (10%)、③第 28 週授業終了時提出 (10%)、④第 30 回授業終了時提出 (20%)		
8. 履修の条件		
特になし		
9. その他		
授業は講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加すること。		

科目番号	科 目 名	成育健康看護学特論		担当教員：阿部正子、流郷千幸、	
博看 008	科目名（英語）	Advanced Seminar in Nursing for Women's Health and Child Health			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	2	各研究室	各指定時間
1. 授業の概要					
女性と子ども及び家族の健康課題を解決するために、関連する諸理論の理解を深め、エビデンスに基づく看護実践方法を学習し、女性と子ども及び家族が自らのもつ力を発揮できる支援に関する看護の役割を探究する。また、妊娠から出産、小児、思春期、成人への発達、そして妊娠というサイクルに関わる成育医療を支える看護学を探究する。各自の関心のあるテーマに関連した既存文献を系統的に吟味・講読し、女性と子ども及び家族の健康課題に対する看護実践方法を開発する能力を養う。					
2. 到達目標					
1. 女性と子ども及び家族の健康課題と支援にかかわる諸理論を説明できる。 2. 女性と子ども及び家族が自らのもつ力を発揮できるエビデンスに基づく看護実践方法を説明できる。 3. 成育健康看護における課題に関する実証的研究、看護介入モデルの方法を説明できる。 4. 地域文化を踏まえ、成育医療を支える看護実践方法を探究する。					
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性					
授業の到達目標は下記の DP と密接に関連している。 DP1：高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自律して行うことのできる能力を有している。 DP4：看護の専門性を追究し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力を有している。					
4. 授業の計画と内容					
第2回～第11回は成育健康看護に関わる理論と概念を学習し、学生自身の関心のある研究課題に関連した概念について考察し、その限界及び課題について検討する。 第12回～第21回は国内外の研究の動向を踏まえ、学生自身の関心のある研究課題に関連した文献を検討し研究課題を明確にしていく。 第22回～第30回はこれまでの学習を踏まえ学生の関心のある研究課題に関連した看護介入モデルを検討する。					
第1回	ガイダンス（講義の進め方、学習方法、評価等）				阿部正子、流郷千幸
第2回	成育健康看護に関わる理論の理解① アタッチメント理論				流郷千幸
第3回	成育健康看護に関わる理論の理解③ セルフケア看護理論				流郷千幸
第4回	成育健康看護に関わる理論の理解④ 子どもセルフケア看護理論				流郷千幸
第5回	成育健康看護に関わる理論の理解⑤ 成長・発達理論				流郷千幸
第6回	成育健康看護に関わる理論の理解⑥ リプロダクティブヘルス/ライツ				流郷千幸
第7回	成育健康看護に関わる理論の理解⑦ ジェンダー、フェミニズム理論				阿部正子
第8回	成育健康看護に関わる理論の理解⑧ 母親役割獲得理論				阿部正子
第9回	成育健康看護に関わる理論の理解⑨ 家族看護論				阿部正子
第10回	成育健康看護に関わる理論の理解⑩ 癒しケア、ケアリング理論				阿部正子
第11回	1～10 回までの成育健康看護に関わる理論の学習を踏まえ、授業で取り上げた理論及び概念の中から学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、国内外の論文をクリティークした結果を発表する。（レポート課題①作成）				阿部正子、流郷千幸
第12回	女性に関する健康課題① 月経随伴症状				阿部正子
第13回	女性に関する健康課題② 妊孕性				阿部正子
第14回	女性と子ども及び家族の健康課題① 生殖補助医療				阿部正子
第15回	女性と子ども及び家族の健康課題② 貧困、社会的リスク				阿部正子
第16回	女性と子ども及び家族の健康課題③ プレパレーション				流郷千幸
第17回	女性と子ども及び家族の健康課題④ 子どものストレス				流郷千幸
第18回	女性と子ども及び家族の健康課題⑤ 子育て不安・ストレス				流郷千幸
第19回	女性と子ども及び家族の健康課題と支援① 多職種協同プレパレーション				流郷千幸
第20回	女性と子ども及び家族の健康課題と支援② 母子健康包括支援				阿部正子

第 21 回	13～22 回までの女性と子ども及び家族の健康課題と支援の学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、国内外の論文をクリティークした結果を発表する。(レポート課題②作成)	阿部正子、流郷千幸
第 22 回	成育健康看護に関わる課題における実証的研究の検討①	流郷千幸
第 23 回	成育健康看護に関わる課題における実証的研究の検討②	流郷千幸
第 24 回	成育健康看護に関わる課題における実証的研究の検討③	流郷千幸
第 25 回	成育健康看護に関わる課題における実証的研究の検討④	流郷千幸
第 26 回	成育健康看護に関わる課題における看護介入モデルの検討①	阿部正子
第 27 回	成育健康看護に関わる課題における看護介入モデルの検討②	阿部正子
第 28 回	成育健康看護に関わる課題における看護介入モデルの検討③	阿部正子
第 29 回	成育健康看護に関わる課題における看護介入モデルの検討④	阿部正子
第 30 回	第 22 回～29 回までの学習を踏まえ、学生の関心のある成育健康看護に関わる課題における看護介入モデルについて (レポート課題③作成) 発表し、地域文化に根差した看護実践方法の開発に向けて検討する	阿部正子、流郷千幸
5. テキスト		
・適宜参考資料等、提示する。		
6. 準備学習		
・参考文献を読み、課題の整理、プレゼンテーション資料の作成及び発表の準備を行うこと。		
7. 成績評価の方法		
・活動状況 (40 点) (資料作成、プレゼンテーション、ディスカッション)、 ・レポート課題①20 点・レポート課題②20 点・レポート課題③20 点で評価する。		
8. 履修の条件		
特になし		
9. その他		
主体的に授業に参加すること		

2026 年度

科目名	地域包括看護学特論			担当教員： 永田美和子、田場真由美	
科目名（英語）	Community-based Integrated Nursing			大城凌子	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	通年	2	各研究室	各指定時間
1. 授業の概要					
地域包括看護の対象である個人、集団及び地域の健康増進、QOL の向上となる看護活動に活かせる理論やモデルを学び、最新の研究成果や実践の動向、政策を分析し、地域包括看護学の研究の現状と課題を明らかにする。個人/家族レベルや地域レベル、社会レベルにおける生活と健康問題を概観し、既存の研究成果や理論に基づき、看護介入方法や理論開発する能力を修得する。					
2. 到達目標					
1. 地域包括看護で活用し得る理論やモデルや既存の研究、実践の動向を多角的に概観し、研究課題を見出す。 2. 地域包括看護の実践及び研究に関する課題とその背景を分析、検討することにより批判的思考能力を高める。 3. 理論やモデル、研究、実践を統合した新たな介入方法とその地域への応用について検討する。					
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性					
授業の到達目標は以下のディプロマ・ポリシーと密接に関連している。 1. 高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自立して行うことのできる能力を有している。 2. 生涯にわたり自己研鑽し、行動な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる能力を有している。 3. 沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解のもとに、人々の生活および地域のニーズに沿った保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力を有している。 4. 看護の専門性を追求し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力を有している。					
4. 授業の計画と内容					
第 2 回から～第 15 回は地域包括看護に関わる理論と概念を学修し、学生自身の関心のある研究課題に関連した概念について考察し、その限界及び課題について検討する。第 16 回～21 回は地域包括看護に関わる国内外の研究の動向を踏まえ、学生自身の関心のある研究課題に関連した文献を検討し研究課題を明確にしていく。第 22 回～30 回はこれまでの学修を踏まえ学生の関心のある研究課題に関連した看護介入モデルを検討する。					
第 1 回	講義ガイダンス（講義の進行、学習方法、評価などの説明）			永田美和子	
第 2 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 コミュニティディベロップメント			田場真由美	
第 3 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 ケアリング			永田美和子	
第 4 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 エンパワメント			大城凌子	
第 5 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 コミュニティ・アズ・パートナー			田場真由美	
第 6 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 ストレングス			永田美和子	
第 7 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 地域文化			大城凌子	
第 8 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 ソーシャルキャピタル			田場真由美	
第 9 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 偏見・差別			永田美和子	
第 10 回	地域包括看護で活用されている理論及びモデルの動向と課題検討 人権・意思決定			大城凌子	
第 11 回	地域包括看護で活用されている理論と概念及びモデルの動向と課題検討 メンタルヘルス ト라우マ			田場真由美	
第 12 回	地域包括看護で活用されている理論の考察 第 2 回～11 回までの学修を踏まえ、授業で取り上げた理論及び概念についてその限界および課題について検討する（学生発表）			永田美和子、田場真由美 大城凌子	
第 13 回	学生自身の研究課題に関連した理論及び概念の検討①			永田美和子	

2026 年度

第 14 回	学生自身の研究課題に関連した理論及び概念の検討②	永田美和子
第 15 回	学生の研究課題に関連した中心概念の考察 第 13 回～14 回までの学修を踏まえ、授業で取り上げた理論及び概念の中から学生自身の研究課題に関連した中心的概念を検討し限界と課題を明確にする（学生発表）	永田美和子、田場真由美 大城凌子
第 16 回	地域包括看護の関心領域の国内外の文献の研究の動向の分析と課題①	永田美和子
第 17 回	地域包括看護の関心領域の国内外の文献の研究の動向の分析と課題②	大城凌子
第 18 回	地域包括看護の関心領域の国内外の文献の研究の動向の分析と課題③	田場真由美
第 19 回	地域包括看護の関心領域の国内外の文献の研究の動向の分析と課題④	永田美和子
第 20 回	研究課題に関連した国内外の研究成果の考察① 第 16 回～19 回までの学修を踏まえ、学生自身の研究課題に関連した国内外の論文をクリティークし、研究の成果と課題を検討する（学生発表）。	永田美和子、田場真由美 大城凌子
第 21 回	研究課題に関連した国内外の研究成果の考察② 第 16 回～19 回までの学修を踏まえ、学生自身の研究課題に関連した国内外の論文をクリティークし、研究の成果と課題を検討する（学生発表）。	永田美和子、田場真由美 大城凌子
第 22 回	学生自身の研究課題に関連する実証的研究の検討①	永田美和子
第 23 回	学生自身の研究課題に関連する実証的研究の検討②	永田美和子
第 24 回	地域包括看護に関して学生の研究課題に関連する看護介入モデルの検討①	永田美和子
第 25 回	地域包括看護に関して学生の研究課題に関連する看護介入モデルの検討②	永田美和子
第 26 回	地域包括看護に関して学生の研究課題に関連する看護介入モデルの検討③	永田美和子
第 27 回	地域包括看護に関して学生の研究課題に関連する看護介入モデルの検討④	永田美和子
第 28 回	学生の研究課題に関連する看護介入モデルの考察 第 24 回～27 回の学修を踏まえ、学生の研究課題に関連した地域文化を踏まえた看護介入モデルを検討する（学生発表）	永田美和子、田場真由美 大城凌子
第 29 回	学生の研究課題に関連する看護介入モデルの考察 第 24 回～27 回の学修を踏まえ、学生の研究課題に関連した地域文化を踏まえた看護介入モデルを検討する（学生発表）	永田美和子、田場真由美 大城凌子
第 30 回	まとめ	永田美和子、田場真由美 大城凌子
5. テキスト		
（参考）・筒井孝子（2019）地域包括ケアシステムの深化、中央法規 4,000 円 ・ナン・リン（2014）ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論 ミネルヴァ書房 3,600 円 ・キャロル・レップナセン・モンゴメリー（2005）ケアリングの理論と実践 医学書院 2,300 円 ・山田智恵里（2017）看護の重要コンセプト 20 看護分野における概念分析の試み エリゼビア・ジャパン（株）4,500 円 松村真司（2016）概念モデルをつくる NPO 法人健康医療評価機構 2,200 円 近藤麻理 片田範子（2023）看護における概念開発 3960 円 黒田裕子（2017）中範囲理論 第 2 版 学研 3,200 円 ＊資料は授業で随時提示する。適宜 参考資料等を提示する。		
6. 準備学習		
・初回において年間を通しての事前課題を明示する。また、事前に配布する資料の読み込みと疑問点の明確化、ディスカッション資料の作成を計画的に取り組むこと。		
7. 成績評価の方法		
・授業への取り組み（資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション）及びレポートにより評価する。 ・授業におけるプレゼンテーション（25%） ディスカッションへの参加度（25%） ・レポート（50%）：最終授業終了後期日以内にレポートを提出すること。		
8. 履修の条件		
・特になし		
9. その他		
・授業は主として院生と担当教員とのディスカッションで進める。		

科目番号 博看 010	科目名 科目名 (英語)	精神保健看護学特論 Theory and Research on Psychiatric Mental Health Nursing		担当教員：鈴木啓子、平上久美子、	
単位数 2	受講年次 1	開講予定学期 通年	登録予定人数 2	研究室 各研究室	オフィスアワー 各指定時間
1. 授業の概要					
精神的健康問題を抱え生きる人とその家族の権利が擁護され、生活の質の向上に寄与するための看護実践の探究や課題の明確化のため、基盤となる理論について学ぶ。合わせて精神保健看護に関する現象を多角的に探究するため複数の概念を取り上げ検討する。これらの学習及び文献検討に基づき、精神保健看護に関わる自身の関心のある現象を取り上げ、既習の理論及び概念を用いて関連性を示し、研究課題を明確化する。これにより、精神保健看護学に寄与する地域文化を踏まえた知識の創出や学問的発展を導く能力を養うことを目的とする。					
2. 到達目標					
1. 精神保健看護学領域で活用されている理論、概念を説明できる。 2. 精神保健看護にかかわる現象を理論、概念、実証的研究の観点から分析的に述べるができる。 3. 研究課題を探究するにあたり必要となる概念枠組みや研究方法と諸理論、概念の関係について説明できる。 4. 精神保健看護学における研究課題の探究がもたらす精神保健看護学への貢献について述べるができる。 5. 地域文化を踏まえ精神保健看護に関する諸理論及び看護実践モデルを検討できる。					
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性					
DP の以下の内容 (特に 1.2.4) に到達できるようにプレゼンテーションと討議を中心として学修する内容である。 1.高い倫理観と論理的思考力を持ち、看護学の発展・深化に寄与する研究を自律して行うことのできる能力を有している。 2.生涯に渡り自己研鑽し、高度な専門的知識と教育指導力を持って次世代の看護職を育成できる能力を有している。 3.沖縄の歴史や文化に根差したケアリングの理解をもとに、人々の生活及び地域のニーズに添った保健・医療・福祉の発展に貢献できる能力を有している。 4.看護の専門性を追究し、看護ケアが提供される場における多様かつ複雑な要因の解明ができ、看護実践の改善・改革に取り組むことができる能力を有している。					
4. 授業の計画と内容					
第 1 回	オリエンテーション(講義の進め方、学習方法、評価等)	鈴木啓子、平上久美子、			
第 2 回	精神保健看護に関わる理論の理解① 対人関係理論	鈴木啓子			
第 3 回	精神保健看護に関わる理論の理解② セルフケア看護モデル	鈴木啓子			
第 4 回	精神保健看護に関わる理論の理解③ 発達理論・精神力動理論	平上久美子			
第 5 回	精神保健看護に関わる理論の理解④ ストレス対処モデル・危機理論	鈴木啓子			
第 6 回	精神保健看護に関わる理論の理解⑤ 学習理論・認知行動理論	平上久美子			
第 7 回	精神保健看護に関わる理論の理解⑥ 障害受容・エンパワメント理論	鈴木啓子			
第 8 回	第 1 回～7 回までの学習を踏まえ、地域における精神保健看護に関わる現象を取り上げ、理論活用の有用性、限界及び課題を明らかにし、求められる研究の方向性を検討する。	鈴木啓子、平上久美子			
第 9 回	精神保健看護に関わる概念の理解①悲嘆、希望	鈴木啓子			
第 10 回	精神保健看護に関わる概念の理解②体験、意味、物語	平上久美子			
第 11 回	精神保健看護に関わる概念の理解③怒り、攻撃、暴力	鈴木啓子			
第 12 回	精神保健看護に関わる概念の理解④ふれるケア、タッチング	鈴木啓子			
第 13 回	精神保健看護に関わる概念の理解⑤リカバリー、レジリエンス、ストレングス	平上久美子			
第 14 回	精神保健看護に関わる概念の理解⑥スティグマ、偏見、差別	鈴木啓子			
第 15 回	第 1 回～14 回までの学習を踏まえ、授業で取り上げた理論及び概念の中から学生自身の研究課題に関連したテーマを選び、10 本程度の国内外の論文をクリティークした結果を発表する。(レポート課題①作成)	鈴木啓子、平上久美子			
第 16 回	精神保健看護に関わる概念分析の方法と実際①	村上満子			
第 17 回	精神保健看護に関わる概念分析の方法と実際②	鈴木啓子			
第 18 回	精神保健看護に関わる理論分析の方法と実際①	鈴木啓子			
第 19 回	精神保健看護に関わる理論分析の方法と実際②	鈴木啓子			
第 20 回	学生の関心のある現象を中心に既習の理論及び概念との関連の検討①	鈴木啓子、平上久美子			
第 21 回	学生の関心のある現象を中心に既習の理論及び概念との関連の検討②	鈴木啓子、平上久美子、			

第22回	学生の関心のある現象を中心に既習の理論及び概念との関連の検討③	鈴木啓子、平上久美子
第23回	第16回～22回までの学習を踏まえ、学生自身の研究課題に関連したテーマに関わる理論及び概念について分析及び検討した結果を発表し、地域文化を踏まえ検討する。	鈴木啓子、平上久美子
第24回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象をめぐる実証的研究の検討①	鈴木啓子、平上久美子
第25回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象をめぐる実証的研究の検討②	鈴木啓子、平上久美子
第26回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象をめぐる実証的研究の検討③	鈴木啓子、平上久美子
第27回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象に関わる看護介入モデルの検討①	鈴木啓子、平上久美子
第28回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象に関わる看護介入モデルの検討②	鈴木啓子、平上久美子
第29回	精神保健看護に関して学生の関心のある現象に関わる看護介入モデルの検討③	鈴木啓子、平上久美子
第30回	第24回～29回までの学習を踏まえ、学生の関心のある現象に関わる看護介入モデルについて、地域文化をふまえた看護の視点から検討した成果を発表する。(レポート課題②作成)	鈴木啓子、平上久美子
5. テキスト		
適宜、参考資料等を提示する。		
6. 準備学習		
・初回授業において、年間の学習課題を提示するので計画的に準備学習に取り組むこと ・事前に配布する資料の読み込み及び疑問点の明確化、プレゼンテーション資料の作成及び発表の準備を行うこと		
7. 成績評価の方法		
授業への取り組み（資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション）及びレポートにより評価する。 ・授業（第8回、15回、23回、30回）におけるプレゼンテーション（25%） ・毎回の授業におけるディスカッションへの参加度（25%） ・レポート課題①第15回授業終了後提出（25%）、レポート課題②第30回終了後提出（25%）		
8. 履修の条件		
特になし		
9. その他		
特になし		